

# RECOVERY

**ISLAND OKINAWA**

**リカバリーアイランド沖縄**

2018 SUMMER

Vol. 020

Photo by *Takkaja.com*

PLEASE  
TAKE IT FREE  
ご自由に  
お持ち帰りください

**無料**

## 依存症治療最前線

「身近にあるネットゲーム依存  
予防と回復支援のために」

医療法人社団利田会 八木 眞佐彦

## 仲間の声

「琉球GAIAとともに」

琉球GAIAスタッフ 中野 照巳

「依存症者と仕事 私の場合」

琉球GAIA OB Aさん

# 新施設開設・移転に伴う 献金のお願い

日々、琉球GAIAをご支援頂いているご家族や関係各位の皆様におかれましては、私どもの活動に対し格別のご理解とご支援をいただき、誠にありがとうございます。

2015年12月より「回復に島・沖縄プロジェクト」として新施設・移転のための献金を募ってまいりましたが、この度目標額を達成し新しい施設を購入することが出来ました。皆様のご協力、ご支援にスタッフ一同深く感謝し、仲間のサポートをより充実させようと決意を新たにしています。

しかしながら誠に恐縮ではありますが、移転に伴うリフォーム、引っ越し代、備品購入等の諸経費が不足しており、皆さまに献金をお願いしたく告知させていただきました。重ね重ねお願いばかりで申し訳ありません。よろしくお願ひいたします。

献金は「回復の島・沖縄プロジェクト」が終了いたしましたので、これまでのゆうちょ銀行からの受付となります。琉球GAIAの活動にご賛同、ご支援頂きますれば誠にお手数ですが同封しております振込依頼用紙にてお振込み下さるようお願い申し上げます。なお誠に勝手ながら、献金の振込依頼用紙は全ての方に同封させて頂いており、寄付献金を強要しているものではありませんのでご了承下さい。

## 献金お振込先

郵便振替 口座番号:01710-2-48714 口座名:琉球GAIA

# RECOVERY

## ISLAND OKINAWA

### CONTENTS

#### 依存症治療最前線

身近にあるネットゲーム依存  
予防と回復支援のために

医療法人社団利田会 八木真佐彦

#### 仲間の声

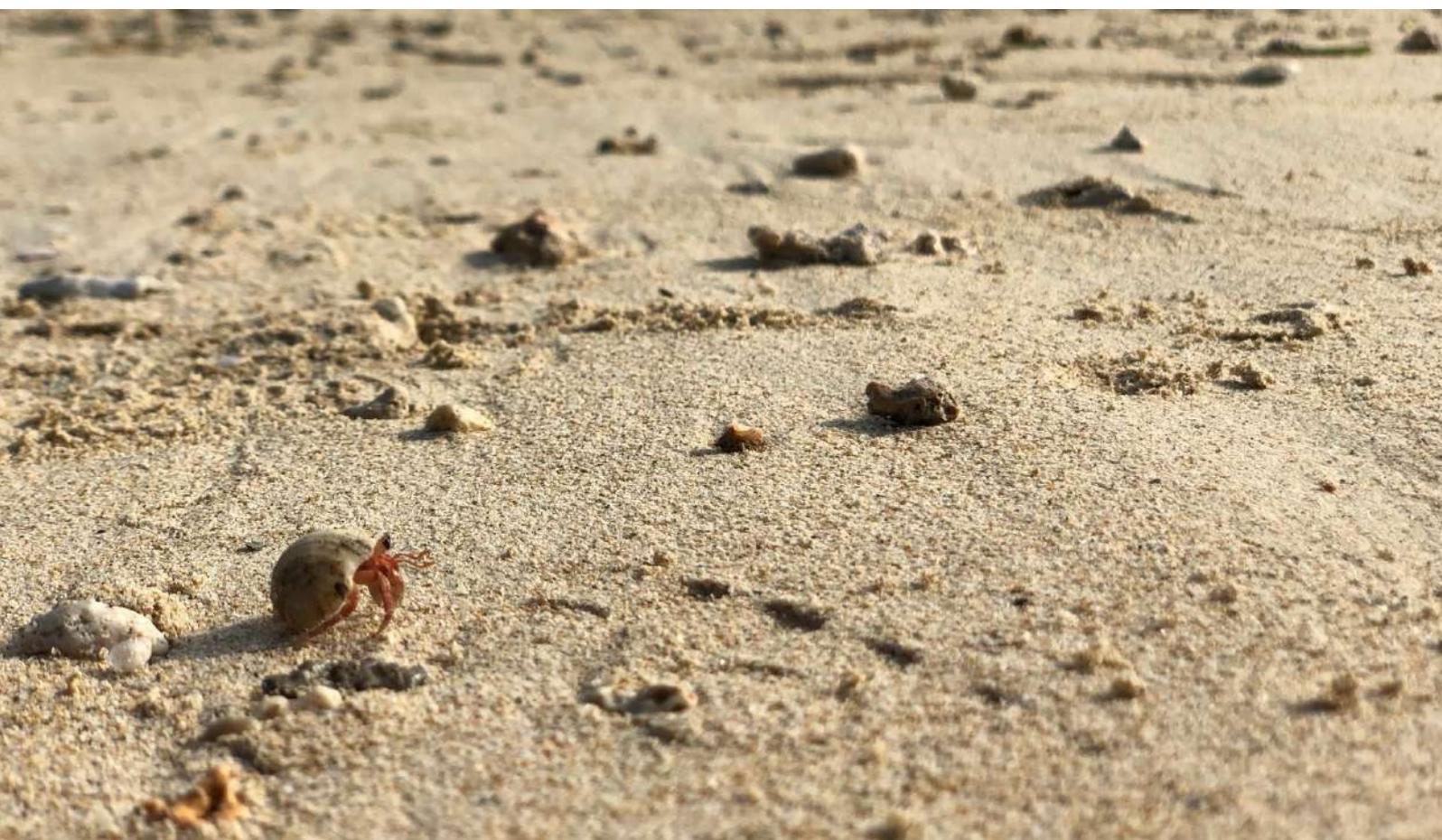
琉球GAIAとともに

琉球GAIAスタッフ 中野照巳

#### 仲間の声

依存症者と仕事 私の場合

琉球GAIA OB Aさん



## 身近にあるネットゲーム依存 予防と回復のために

### はじめに

スマホやインターネットは適切に使えば、お仕事上の必要性はもちろん、災害避難情報、自助グループや相談先探し、万歩計代わりになるなど、これほど便利なツールはありません。また私たち全員がいずれは年老いてなんらかの身体管理や見守りを受けるようになると、スマホやインターネットの恩恵を受けるであろうことも想像に難くありません。

しかし我が国の統計上アルコール依存症の方の人数は20年前の2分の1以下に減じたとされる一方で、2013年に実施された厚生労働省の調査では約420万人のネットゲーム依存傾向の人がいるとされたように極めて身近な問題となってきました。

本稿ではネットゲーム依存予防、及び重症化予防や回復支援のために感じることを全4回に分けてお話をさせて頂きたいと思えます。

すネットゲームの世界に避難したくなる、ということを繰り返していた事例が殆どです。

ところが第4回で紹介するご家族向けワークブックCRAFTの応用により、周囲の人が依存症への理解を深め対応を変えることで、徐々にお子さん(当事者)の心的苦痛が減じ回復してくプロセスが存在します。本稿では脳の変化の有無はさておき、環境調整と家族教室(座学とグループワーク)、ご家族やお子さんの個別相談という精神保健福祉士としての経験から感じることを述べさせていただきます。同時に極めて身近にあるネットゲーム依存という現象を通じてアルコール、薬物、ギャンブルなどについても単に道徳的是非にとらわれるのではなく、そもそも人はなぜ依存

WHO世界保健機関が今年、実に20年以上ぶりに改定する診断マニュアルICD-11において「Gaming disorder」(ゲーム症・障害)が盛り込まれる予定、というニュースは記憶に新しいところで。なお、ICD-11ではSNSなど繋がりが型依存については十分な研究結果が得られていないとして「その他の嗜癖行動による障害」とするようです。ここでは2013年発表のアメリカ精神医学会の診断マニュアルDSM-5において「今後研究が進められるべき精神疾患の一つ」として初めて記載された「ネットゲーム障害」に近い意味合いで、ネットゲーム依存という文言で仮称させて頂きます。



症になるのか?、あるいは「依存」という言葉にまつわる誤解を振り返るきっかけになればさいわいと思います。

### WHO世界保健機関で 診断名化へ

2013年アメリカ精神医学会が今後の研究課題として仮称「ネットゲーム使用障害」と明記したことから各国で治療研究、支援が進められました。WHOの原典で「Gaming disorder」としているものを厚労省がどのように和訳するかについても着目されるところで。

ネットゲーム障害の人は発達障害が基礎疾患として存在していることが50%以上ともいわれています。

### ゲーム症・障害、WHOが疾病分類へ

朝日新聞社 2018年01月03日より

インターネットゲーム等のやり過ぎで日常生活に支障をきたす症状について、世界保健機関(WHO)が2018年、病気の世界的な統一基準である国際疾病分類(ICD)に初めて盛り込む方針であることがわかった。国際サッカー連盟(FIFA)主催の世界大会が開かれたり、五輪への採用が検討されたりするなどネットゲームが広く普及する中、負の側面であるネット依存の実態把握や対策に役立てられそう。WHO関係者によると、18年5月の総会を経て、6月に公表を予定する最新版のICD-11で、「Gaming disorder」(ゲーム症・障害)を新たに盛り込む。研究結果の多い「ゲーム症・障害」を疾病として分類する。またLINEやツイッターなどのソーシャル・ネットワーク・サービス(SNS)によるネット依存は「その他の嗜癖行動による障害」とする。

研究者によって様々ですがネットゲーム依存は大きく分けて、

① オンラインゲーム型 (男性に多い)

② コンテンツ依存型 (ユーチューブ等)

③ 繋がりが依存型(女性に多い)

などがあると考えられています。ソーシャルネットゲームの登場により①と③が混在することもありますが、ゲームユーザー同士で褒められたい、人気者になりたい等は少なくとも人と繋がっていたい、という人として当然の動機があるともいえるでしょう。そもそも人は何故、依存症になるのかを考える時、対人葛藤やトラウマ体験、うつや何らかのこころの病気など心的苦痛を緩和するための対処方法という側面がある点はこの依存症もネットゲーム依存も同様と感じています。したがって家庭・学校・職場環境等に存在するかもしれない機能不全の改善、あるいはベースにある何らかの精神疾患へのケアもせず一方的にネットゲー

更に言えば、アルコール、薬物、ギャンブルなど既存の依存症者とされる人々の中にもネットゲーム依存よりは低率ではあるものの、一般的な認識以上に発達障害が基礎疾患として存在していることも分かっています。このことは新しい時代の依存症治療・支援のあり方を考える上でも重要なヒントを投げかけてくれている、と思います。

ネットゲーム依存に話題を戻しますと、将来的に先研究が進むとSNS型の人もゲームの人も例えば「ネットゲーム使用障害」等の様に統合される日が来るのかも知れません。余談ですが個人的には「医学的な意味での依存」と、「道徳的な意味での依存」を誤解・混用し、当事者を困らせ鍛えようという、不良な予後に直結する対応が蔓延している風潮があることが否めないことから、依存症と呼ぶよりも使用障害と呼んだ方が周囲の批判的・懲罰的な対応が減じ、回復の開口は広くなるかと確信しております。孤立の病とも言われる依存症は重症化予防にも回復にも相談のしやすさ、されやすさ(当事者・ご家族・支援者双方方向)がカギになると言っても過言ではないと感じております。

全てのアデイクション共通の課題ですが、まずはご家族や関係者が癒やされながら学ぶこと、そしてネットゲームを用いた自己治療が必要になってくる「大元の心的苦痛が何か」、あるいは「発達障害など何ら



八木 眞佐彦

医療法人社団利田会 次長  
精神保健福祉士・社会福祉士

法務省東京保護観察所で社会復帰調整官を経験後、平成25年8月から現職に就く。各種依存症のほかネットゲーム依存の相談支援、保健所等でのひきこもりの家族支援にも携わる。趣味はサイクリング。

ム使用を批判することはこれまでの相談経験上、重症化の元となりがちです。

なおネット過剰使用の目的がギャンブルである場合、ネットやスマホは単にツールに過ぎずギャンブル依存と判断すべきです。それがポルノサイト閲覧など性的欲求を満たす手段、薬物を手に入れる手段であれば、それそれ性依存、薬物依存の一面面といえるでしょう。しかし、ポルノサイトの過剰閲覧によって仮に脳に変化が生じた結果、人生の最優先事項がポルノサイト閲覧になってしまふという症例の可能性も考えられ、今後の研究とエビデンスの集積が待たれるところです。

私の経験上、ワイドショーなどでの扇情的な演出により「ネットゲーム依存はこんなに恐ろしい」「大変だ脳が変化しちゃう」などと不安感をあおられたご家族が、より一層のお子さんへの批判や過干渉、否定的な言動を繰り返してしまい、それを受けたお子さん(当事者)はますます

かこのこころの病気が放置されていないか」などを類推し、その苦痛や基礎疾患自体を軽減/緩和することが最重要且つ有効と考えます。つまりネットゲーム依存の回復にはお子さん(当事者)と対立する必要はなく、寄り添い同じ方向を向いて心的苦痛や基礎疾患を緩和・解消できるかを共同歩調で取り組むイメージをつかむことが大切と言えるでしょう。心的苦痛の多くは親子関係・両親の不仲、過去のトラウマや学校(職場)での虐め被害、過剰な成績(業績)への期待、何らかのこころの病気の放置等が考えられます。

### 【依存症に対する大切な視点】

～懲罰は病状を悪化させる～

2014年に各国に向けて「薬物問題の非犯罪化を勧告」しました。これを実践したポルトガルでは相談にやすさ・支援へのアクセスの良さが奏功し、若者の薬物使用率が下がったことが注目されています。ネットゲーム依存でもこれらの知見を応用可能ではないでしょうか。何よりも当事者もご家族も決して批判されない安心できる相談機関と繋がるのがとても大切と感じております。

## 琉球GAIAジュニア



中野 照巳  
琉球GAIA スタッフ

【なかの てるみ】1965年生まれ、東京都出身。東京でグラフィックデザイナーとして勤めたのち沖縄に移住。琉球GAIAのスタッフとして現在に至る。

私は一昨年、2016年6月から琉球GAIA職員として勤務させていただいている中野と申します。私が沖縄にやってきたから早いものでまもなく2年の月日がたつこととなりました。関東圏を出たことになかった私にとって始めは沖縄という土地、風土、文化に慣れるので精一杯でしたが、住み始めて2年目ともなると大分落ち着いてきた今日この頃です。

私の前職はグラフィックデザイナー。東京で20年間会社勤めをしていました。勤め始めて14〜15年目くらいだったと思います。眼鏡を新調しに行った際、眼科医の診察を受けました。その時左目に異変が見つかり、別の病院で精密検査を受けた結果緑内障と診断を受けました。視野が徐々に欠けていく病気で、その時点では既に進行しており5分の1ほどの視野が欠けていたのです。突然突きつけられた現実には私は戸惑いを隠せませんでした。仕事をしたい

て肩がこったり、頭が痛くなったり、体調不良はそのせいだったのかもしれない。日に日に気持ちの上でもいらいらや憔悴感が増す一方でした。それでも何とか自分を奮い立たせて今持っているものを死守すべく仕事を続けていましたが、深夜にまで及ぶ仕事のせいで家族との交流も希薄になっていきました。やがて孤独感にさいなまれ、このままで良いのだろうかという不安で押しつぶされそうな毎日でした。その間にも目の状態は悪化してゆき5年間で4分の1ほどの視野を失っていました。

その以前から妻はかねてから交流のあった琉球GAIA代表鈴木木氏から女性ハウスをやらなにかと誘いを受けていました。そこで妻は私の病気のこと、仕事のことを考慮して沖縄に移住して新しい生活をスタートさせようと決心します。その提案を聞いた私は諸手を挙げて沖縄行きを決断することは出来ませんでした。それまで築き

上げたキャリアを捨て、未経験のことにチャレンジすることは清水の舞台から飛び降りるほどのことです。肉体的にも精神的にも悲鳴を上げ始めているにもかかわらず、その場を離れようとしなないのが自分の問題でもあり、生きづらく感じる要因でもありました。沖縄行きを決断するには多くの時間を要しました。一度手に入れたものを手放すのはとても勇気のいること。しかし、何かを手放さなければ新しい物事にはチャレンジできません。これは今まで生きてきた中で学んだことでもあります。

2015年12月、意を決して会社に退職の願いを申し出、翌年6月に沖縄へと移住をしました。そして琉球GAIA職員としての新しいスタートを切るのでした。

私はリハビリ施設のスタッフとしての経験は無く、始めは何をすれば良いのかとても悩みました。けれど考えた末、私に出来ることは利用者さんと共に歩むことだとい

う結論に至りました。一緒に掃除をし、食事を作り、ミーティングに出席し、一緒にスポーツをする。スポーツプログラムで印象的だったのは野球です。私は子どもの頃、空き地でキャッチボール程度のことしかしたことありませんでした。しかし、GAIAのスポーツプログラムでは、グローブをして相手が打った球を捕ったり、相手が投げたボールをバットで打ち返したり、50歳を過ぎた自分が野球をすることにしろうとは夢にも思いませんでした。実際はボールを捕ることもできず、バッテリーボックスでは打つこともままならないのですが……。そして、沖縄といえばサーフィン、釣り、シュノーケリング等、数々のアクティビティーができる海があります。中でも私の得意分野は釣り。仕掛けの結び方、餌の付け方を教えたりと、皆と楽しく会話をしながら釣りを楽しんでいます。そのようなのびのびとした環境で利用者の皆さんと過ごしています。そして私自身の心も癒やされ、家族との関係も取り戻すことができました。

GAIAには不思議な力があると思います。今まで一人では酒、薬、ギャンブルを止めることができなかつた人々が、GAIAという共同体の中に入ることによってその行為が止まります。それは「止めたい」という共通の目的を持った仲間同士がいるからこそ成し遂げられることではないでしょうか。



# 依存症者と仕事

## 私の場合



琉球GAIA  
OB  
Aさん

はじめまして。Aと申します。数年前に薬物事犯として警察のお世話になることとなりその際にガイアと繋がりが入寮を経験しました。

当時は20代。薬物に依存していた頃の凄惨な話は枚挙にいとまがありませんが、端的にいうとここで毎号寄稿されている皆様と全く同じです(笑)

「ひどい状態で」「すべてを失って」「ガイアに繋がることとなりました。

当時社会人として私が在職していた会社は比較的大きな企業でした。

それ故、自身よりも優秀な能力や学歴、職歴を持った人達も多く、そういった人達と日々競いあう事が常態化し、焦燥感が募る日々を過ごしていました。そんな環境で一朝夕で補え切れない能力の差、自身のコンプレックスを隠す事、等身大の何倍も自分を大きくみせるのに必死でした。薬物に本格的に耽溺したきっかけは「社会で勝つためのドーピング」という認識からかもしれません。

いまにして思えば、若い時分何をそこまで焦っていたのだろうと我ながら失笑してしまふ事も多いのですが、とにかくその当時の自分にとっては「今自分がいる世界」が「この世のすべて」だったのです。

さて、ガイアにたどり着いたときは文字通り「この世のすべて」を喪失した状態、つまり今まで自分が拠り所にしてきたものをなくしてしまつた、茫然自失という言葉がぴつたりの心境でした。

おまけに留置場に面会にきてくれた施設長の一言。

「元氣になれば沖縄で好きな事をしてバイトもできますよ」

これは堪えました(笑)

「そんな自分は望んでいないから!もつと俺はすごい!」

もう一度山の頂に立つ事を目標としていた自分にとっては出鼻をくじかれる思いでした(笑)

そんな高慢極まりない私の入寮生活ですが、結論からいうと意外にも楽しかった!です。

当時は同世代の仲間も多く、年の離れた仲間やスタッフも私を快く受け入れてくれ、みんなでいろいろな話をしました。ひた隠しにしかかったパクられた話はいつしか笑いをとる際のお家芸に、そして各々の将来の話、夢の話。

私を筆頭に将来の展望はみんな荒唐無稽なものばかりでしたがそんな仲間との語らいは

のを諦め、新しい生き方を模索しなければいけないにも関わらず、再び社会にでる際には、食っていく為に「過去の自分」が培ってきた技術や能力に依拠した「仕事」を探さざるを得ないという現実です。

この問題は私を苦しめました。そこでまずお得意の逃避的なビジョンを考えます。

6年間医大に通い医師になって社会貢献する。一発逆転プラン。

しかしそんなお金とアタマはありませんよつて不可。

次にボランティア的な立ち位置の仕事を検討しました。施設のスタッフや、介護の仕事等。現実的に考えてとても良いプランだと今も考えています。

ただ当時の私の目には依存症業界やその周辺の業界は人手不足という言葉とは裏腹にやや敷居が高いイメージがありました。林立する団体、様々な教義、施設間の関係性やパワーバランス、自立するまでの期間。入口は優しいけれど、奥に入っていくほど高度なコミュニケーションや会計や運営、施設のビジョン策定、運営費の捻出等、個人事業主となら変わらない高度なスキルが求められると感じた事、また自立するまで実家に支援を数年に渡り依頼し続けるだけのゆとりもなかった為こちらも断念。

3つ目の候補は、昔いた業界、もしくは類似した業界に戻る事でした。

この選択のメリットは元来自身が有している経歴、能力をそのまま生かせる部分です。

しかしながら当然ほとんどのケースにおいてダウングレードした会社に入社せざるを得ません。そこで感じるであろう自己憐憫に耐

様々な恩恵をもたらしてくれました。

まず薬物で弱っていた体がみるみる強くなっていくのを実感できるのです。58キロしかなかった体重が半年後には72キロになっていました。

これは自分にとって大きな自信を与えてくれました。

「こんな自分でも努力すれば変わるんだ」月並みですが、その時に得た自信は今も私の根底にあります。

そして2つ目に沖縄の海は私にこの上ない癒しを与えてくれました。

「あく俺いま許されてる」実際は誰にも許されていないのですが(笑)

その感覚は自分に幾分か心の余裕を与えてくれました。

また、みんなで行く北部合宿では沖縄の雄大な自然を童心に帰って楽しむことが出来ました。

そんな生活を続けて入寮生活9か月目に入った時に担当スタッフから唐突に仕事の許可が出ました。

再び私は「将来どうやって食っていくか」という問いに直面する事になります。

「薬物がベースにある就業経験のない人」と

この差はアディクトとしては微塵もありません。ただし、社会に出て行つた際、後者の場合はある程度の「結果」を求められる事が不可避の現実として介在します。

それはNAの教義とも時にアンビバレンスな関係にあるように感じられます。

つまり過去の自分を手放し、いろいろなも





Photo by Takkaja.com

えうる精神力を身に着けているのか？

またクスリを使い続けていた当時と同じ環境、場合によっては更にハードな環境で過去の行動パターンを踏襲しないでいられるか？これも私には無理かな…と考え断念しました。

色々な道を検討するもどれも自分にはハードルが高く感じられて一向に進捗のない日々が続きました。

そんなある日ふと施設長に言われた冒頭の言葉を思い出しました。

「元氣になれば沖繩で好きな事をしてバイトもできますよ」

そうそれこそが最終的に見つけ出した答えでした。

それまでの私はあまりにも即物的に「社会的なイメージを回復する」「すぐに自立できるだけの給与を得る」事だけにとらわれていました。

だからこそ就業先の候補は聞こえのよいものや難易度が高いものばかりになっており、なかなか一歩が踏み出せない状況となっていました。ただ冷静に考えると昨日まで薬物依存者として施設に入寮していた人間が、次の日からいきなり大きな会社や責任のある業務に従事できるか？それこそ世の中はそんなに甘くありません。

それならいつそしばらくはモラトリアムの機会として自分の好きな事を追求してみよう、その上でまた次の機会に「一生の生業」については考えよう。

そこで私はベクトルを反対側に向けて自分の趣味、興味のあるものをかき出しました。

心してくれているようにも感じます。

当時の自分の選択に一切の後悔はありません。結果、そこから道が開けたのですから。

自分の仕事に誇りを持っています。

何より大切な家族を得ることもできました。いつのまにか過去の自分と比較する事もなくなりました。

・少しきれいごとかもしれません。

本音を言えばみせかけはよいですが何年も地べたを這いつくばるような辛い思いをしてきました。今も毎日が競争の日々です。ある種の冷酷さがなくては務まらない瞬間も多々あります。

でも孤独ではありません。

私には艱難辛苦を共に乗り越えた仲間がたくさんいますから。あの当時仲間で語り合った夢物語を現実に行けると確信しています。

そしてなにより仕事を通じて充実感を得られます。

だって好きな事をしてるから。

今自分の子どもたちには好きな事を一生懸命に続ける事を日々反芻しています。

いい学校に入り、誰もが知っている企業で働く。それ自体はとても素晴らしい事です。

親として子どもにはそういう人生を送ってほしいという気持ちもあります。

でもそこで自分が輝けなければそれはとても虚しいものです。

だからこそ子ども達には「好きこそものの上手なれ。」

好きな事を探求してそれを自分の生業にしてほしいと思っています。

スポーツ、ファッション、音楽・・・

施設にいる時、時間さえあれば仲間と一緒にファッション誌を食い入るように見ていた自分を思い出し、様々な好きな事の中からファッションをピックアップしました。

そこで全くの門外漢ではありませんでしたが、県内の小さなファッションブランドに応募してみました。結果は運よく合格。そのタイミングで通所に切り替え週5の正社員（といっても実質アルバイトのようなもの）として働く事にしました。

ただそれに対しては施設も親も非常に難色を示していた事は今でも鮮明に覚えています。

「いきなり週5はハードルたかいんちゃう？」「なんでファッションなの？」

当時はムカつきましたが、私がまた突飛な事を始めたこと心配になる気持ち。今は痛いほどわかります（笑）

未経験で始める訳ですから、当然のごとく毎日毎日怒られる日々です。

何度となく理不尽な事を言われたり、今振り返るとパワハラまがいな目にもあってきました。しかしそこで施設で学んだ人間関係のスキルがおおいに役立つ事を知りました。

それまでの私であれば、言い返しそうになる状況でも、一旦とりあえず受け入れる。イライラした時も、怒りは自分自身の問題と内省する。どうしてもストレスを解消できないときは運動をしたりDVDをみたり気分を変えれる事をする。

その実践の日々で自分の「コミュ力」が

☆今苦しんでいる方へ☆

私自身は仲間にも恵まれ楽しい生活を送る事が出来ましたが、ガイアはユートピアではありません。入寮生活を通して日々性格やバックボーンの異なる人と共同生活を送っていく事は非常にハードルが高い事だと実感しました。楽しいとはいえ、もう一度あの生活に戻るのにはちよつと勘弁だなどという思いが私の抑止力でもあります。

ただ、そこで体験した事、思い出はきつと一生の財産になります。

私の場合には社会に出てからガイアで学んだ事が身を手付けてくれた瞬間がたくさんありました。また、たまに当時を回想すると懐かしく、タフな環境で頑張ってきた自分や仲間を思い出し、少しだけ誇らしい気持ちになります。

だからこそスタッフを信じて一生懸命に毎日を楽しんでほしいと心から思っています。

そして機会があれば是非一緒に遊びましょう！

沖繩に遊びにいった際には宜しくお願ひ致します。

社会の中でうなぎ上りに上がっていく事を感じました。「あつなんか昔より人付き合いが楽かも…」

以来NAの教義について本当に重要な事はその知識を保有することではなく、自分が今向き合っている現実の中で生かす事だと私は考えています。

年齢も30近くなって安物の洋服を畳んだり、拙い言葉で必死に接客をする姿は、傍からみれば滑稽そのものだったかも知れませんが。職場に見学に来た時の両親の曇りがちな表情にはただただ申し訳ない気持ちでいっぱいでした。社販で服を買ってくる私にスタッフもいい顔はしません。ただ毎日毎日がとにかく新鮮でした。必死にメモをとり家に帰って薄暗い中でノートを見返しては接客のフレーズを考える。ファッションについて研究することはとても充実したものでした。そして何せここは沖繩。よくも悪くも私の事を知っている人は一人もいません。だからこそ自己憐憫に陥る事なく恥も外聞もかなぐり捨てて今やるべき事にフォーカスする事ができました。

それから6年が経ちました。

今？沖繩を離れて正社員として類似の業種に携わっています。

将来の見込みはあったのか？

一生の生業は見つけたのか？

わかりません。でも当時のように毎日が「ほつともつと」で「暗がりの中で勉強する」生活ではありません。ひよつとすると一般的に見れば順境といえるかもしれません。相変わらず両親は心配そうですが、幾分安



Photo by Takkaja.com

# 琉球GAIAの家族支援プログラム

Family support

文=鈴木文一  
text by Fumikazu Suzuki

薬物依存症の治療や回復には、ご家族の果たす役割が非常に大きいという事が実証されています。琉球GAIAでは「**家族と共に回復する**」という考えのもと、ご家族の方にも「家族支援プログラム」の参加を強くお奨めしております。

依存症と言う病気をよく理解出来るようになる事、ご本人に対する適切な対応や、コミュニケーションを行えるようになる事、依存症の回復をご家族が信じられるようになる事を大きなテーマにしています。また、家族会のグループがオープンであり、他の援助者や、治療機関との連携も大切にしていることのひとつです。グループに参加することで、ご家族に笑顔が戻り、本人同様、ご家族自身が仲間と出会い、回復を支援する為に必要な知識や情報を共有できる場所となるよう心がけております。

グループで学んだ事を実際の生活に活かせるようになるには、個別支援も必要になります。個別のカウンセリングを通して個々の問題を整理しながらグループに参加して頂けると、教育プログラムの効果が最大限に発揮されると考えております。

また緊急時の対応に関しましても出来る限りのサポートをさせていただきます。

どなたでも下記の家族会にはご出席頂けますので是非ご参加ください。

関西圏で依存症の問題を抱えたご家族の為の家族会です。毎月専門的な講話や家族間での話し合いなど、充実した内容の家族会となっております。ご参加お待ちしております。

場所：兵庫県尼崎市南塚口町1-5-13

美容院ルーナロッサビル3F (参加費2000円)

日時：毎月第1月曜日の15:30~17:00

参加希望の方は琉球GAIAまでご連絡下さい。

琉球GAIA：098-831-2174

大阪家族会

OSAKA

依存症の問題を抱えた多くのご家族、琉球GAIAのスタッフ、OB、専門家を迎えるセミナーなど、依存症に悩むご家族の方々にとって非常に内容の充実した家族会となっております。毎回40名ほどのご家族が参加されておりますが、初めてお越しの方でも参加しやすいアットホームな雰囲気作りを心がけています。

すみだ産業会館にて毎月第2土曜日の18時~20時30分のスケジュールで開催しております。

参加希望の方は琉球GAIAまでご連絡ください。

琉球GAIA：098-831-2174

\*会場変更の場合がありますのでフェイスブック及びGAIAブログで詳細をご確認ください。

GAIA家族会

TOKYO

## address

GAIA家族会 会場：すみだ産業会館8・9階

〒130-0022 東京都墨田区江東橋3-9-10 TEL:03 (3635) 4351

東京家族会とハイビスカスは、会場も開催日時も異なりますのでご注意ください。

沖縄家族会

OKINAWA

沖縄県内の依存症の問題を抱えたご家族の為の家族会です。琉球GAIAスタッフが中心となり、ご家族の方からの質問や、本人とのかかわりについて具体的に提案する形で行っております。

場所：沖縄県立総合精神保健福祉センター2F

日時：毎月第2第4月曜日 (祝祭日は休み)

19時~20時 (無料)

参加希望の方は琉球GAIAまでご連絡下さい。

琉球GAIA：098-831-2174

ハイビスカス

TOKYO

「ハイビスカス」は薬物依存症や様々な問題を抱えた娘を持つ母親を中心にしたグループです。娘とのかかわり方、対応の仕方をテーマにミーティングや勉強会を行っています。一人で悩まずに、同じ問題に取り組んでいる仲間たちと一緒に体験や気持ちを分かち合ったり対応の仕方について勉強しませんか？ ご参加お待ちしております。

場所：東京都港区芝5丁目18-2 東京都福祉保健局 障害者福祉会館

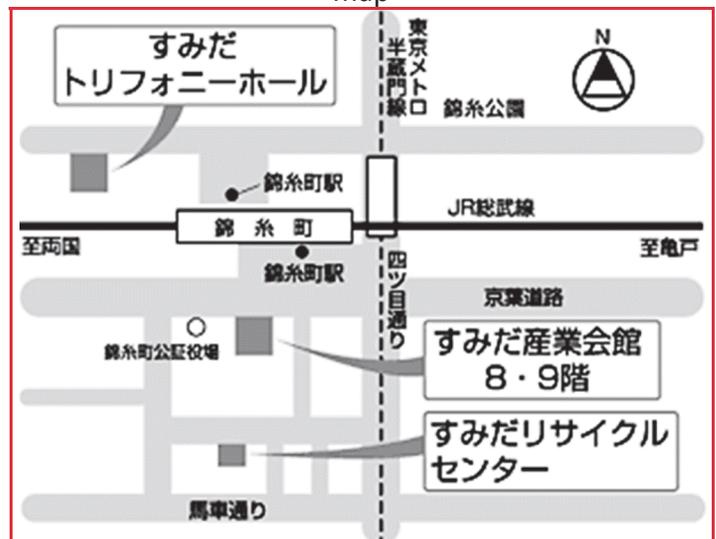
日時：毎月第1土曜日 (祝祭日は休み)

17時30分~20時30分 (無料)

参加希望の方は琉球GAIAまでご連絡下さい。

琉球GAIA：098-831-2174

## map



Call us anytime

※ご不明な点や、各ミーティングに関してのお問い合わせ、お申込みは、琉球GAIA 098 (831) 2174までお問い合わせ下さい。

**RECOVERY**  
ISLAND OKINAWA



2018年 6月発行

発行|特定非営利活動法人アルコール・薬物依存症

リハビリセンター琉球GAIA

〒902-0078 沖縄県那覇市宇識名1102-16

TEL:098-831-2174 FAX:098-831-7174

MAIL:mail@ryukyu-gaia.jp

薬物・アルコール依存症リハビリセンター 琉球GAIA  
【GAIA東日本相談センター】

☎ **03-5800-5121**

【GAIA西日本相談センター】

☎ **06-6433-5111**

【沖縄ケアセンター琉球GAIA】

☎ **098-851-3535**

フリーペーパー(無料)です。ご自由にお持ち帰りください。